

【13】将来の展望（どんな医師になりたいか）・解答作成のためのコメント

この課題では、皆さんの志望大学・志望進路によって内容が異なるので、解答例は出しません。コメントを踏まえた内容になっているかどうか自己チェックしてみてください。

A 3年後の自分は何をしているか、その理由もあわせて書きなさい。(200字程度)

(コメント)

この問題は、あなたが受験する大学医学部では3年次にどのようなカリキュラムが組まれているか、しっかり調べて受験しているか、そして6年間の学部教育への主体的取り組みの意欲が明確かということが問われています。

例えば慶應義塾大学の医学部の3年次は、信濃町キャンパスで起訴・社会医学系科目と2学期からはない科学・外科学など臨床医学を学ぶと教育プログラムで紹介されています。あなたはその時、どのような気持ちと計画でこのカリキュラムに取り組んでいるでしょうか。

B 20年後の自分は何をしているか、その理由もあわせて書きなさい。(200字程度)

(コメント)

ここでは、あなたの将来の志望が問われています。面接でも問われますが、まずは志望進路は臨床か研究か、あるいは医療行政など他の選択かということ。次に研究ならどのような研究をしたいのか、臨床なら、何科の臨床に進みたいかです。その道に進んだとして20年後はどのような現場で働いていますか。こうしたことを思い描けているでしょうか。

研究の場合は、自分取り組みたい研究の現状と、それが20年後にどのように進んでいるかを想定して書いてください。臨床の場合には、各診療分野の現状、医師の充足度合いとか仕事の内容を調べておく必要があります。また働く現場としては、診療所か病院か、どこの地域かくらいは思い描いておきましょう。

C それが叶わなかった時、自分は何をしているか、その理由もあわせて書きなさい。
(200字程度)

(コメント)

「必ず叶えるので代替案はない」という回答もあり得ますが、ここは素直に医学部医学科の自分の志望の目的やその仕事に最も近い分野を考えてみましょう。研究の場合は、医学研究に近い分野はやはり生命科学か薬学です。どの分野の研究がしたいかを生命科学に置き換えて考えてみればよいでしょう。臨床の場合は、患者に接する職業としては、看護師、理学・作業療法士、メディカルソーシャルワーカー、臨床工学技士などが考えられます。精神科や心療内科系統であれば、心理療法士やカウンセラーなどもあります。あるい

は病院経営者や医療・福祉政策に関わる政策立案にかかわる仕事もあるでしょう。さらに、人を支える仕事として副関係の各職種、人の苦しみを探究する哲学、文学、心理学など分野の仕事もあります。

自分が医学・医療を通して何をやりたいのかをじっくり考えた上で、それに対応するような医学とは別の進路を考えてみましょう。